

すよね。

大塚 育児は貴重な経験ですし、新たな発見もたくさんあって楽しいですよ。育児にかかわらないのはもったいないと思いますよ。

結婚したくない？

唐木 結婚している知人の話を聞くと、休みがなかなかとれない人は、共同で何

かやるのは難しいみたいですね。私は、残業で遅くなるとか休みがとれない人は結婚したくないなと思います。逆に言えば、男性は今、かわいいような立場にあるのかな。

真鍋 うちの娘も結婚したいと言わない。私たちの夫婦関係を見ててそう思うんだろうと思うんですが(笑)。

唐木 結婚はしたいんです(笑)。男性も女性も同じように仕事も家事育児もでき

「男性の家事・子どもの世話・介護への関わり方について」の性別賛否割合(1993, 2000年)

炊事、洗濯、掃除などの家事



子どもの世話、子どものしつけや教育



親の介護



■ 積極的に関わるべきだ ■ ある程度積極的に関わるべきだ ■ わからない ■ あまり関わる必要はない ■ 全く関わる必要はない

出所：総理府「男性のライフスタイルに関する世論調査」1993年、内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査-男性のライフスタイルを中心に-」2000年

これからどうなる？ 男女差別

る状況なら結婚したい。でも現実には、結婚したら、女性は育児のために会社を辞めたり休業し、男性は遅くまで仕事をしなきゃいけない。気持ちがあっても育児に参加できない。今の段階では大変な面が見えるので結婚したくないと思います。

小野 私の両親が育ってきた時代は男女の差別感が強かった。でも、私が育ってきた段階では薄くなっている。子どもの世代では、男女差別という言葉も死語になるんじゃないでしょうか。

齋藤 ドメスティック・バイオレンスの数が増えていることを考えると、潜在的な男女差別があっても、何も解消されないと思います。実態は変わっていないんじゃないでしょうか。

真鍋 私は、まだ残ると思うんです。男が中心に世の中が回っている状況がまだあると思います。

小野 一般に、家庭の中の性差別を考えると、やっぱり連綿として残っていますよね。しかし、方向としては、男女差別を解消しようという方向に向かっていていると思います。

真鍋 昔は、女性は結婚しなければ食べられない状況があって、多少、男が横暴であっても結婚せざるを得なかった。でも、自分の自由にならない結婚は嫌だということも結婚しないという女の人が増えたら、男の人も考え直さないとはいかない状況になってくると思います。

小野 仕事の上でも男女平等になること

が、その状況を支えることになると思います。

唐木 結婚はしたいけど、子育ては大事な仕事だと思っているので、それを置き去りにしてまで仕事をしたいとは思いません。

大塚 女性も育児休暇をとるのは大変ですが、男性はもっととりづらいのではないのでしょうか。育児にかかわりたいと思っているのに育児休暇もとりづらいという社会的背景の中では男性が損をしていると思います。

* * * * *

座談会を終えて

性別役割分業意識は、普段の生活の中にしつかりと根づいていて、その意識を変えたいと願っていても、変わることに戸惑いがあるところがあるのかもしれない。長い歴史の中で培われた固定観念を乗り越えることの難しさが、座談会の中に見え隠れしています。

この特集が、普段は意識することの少ない、家庭での性別役割分業意識について考えるきっかけになったでしょうか。

なお、座談会での会話はできるだけ発言に忠実に記録しましたが、紙面の都合で内容の全てを載せることはできませんでした。

次号の特集では、経済面での男女差別を取り上げる予定です。

(編集委員会)